

令和3年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田中学校	校長	松本 貴文	生徒指導主事	相田健太郎
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『生徒会による学校生活向上のための自治的活動』
-------	-------------------------

取組における育てたい資質・能力					
-----------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「課題発見・解決力」	1	「自己肯定感」	3

取組のねらい

- 生徒会を中心とした自治的活動を通して、自分たちの生活をふり返り、学校生活をより良くするための課題を明らかにして、課題を解決する力を育てる。
- 学級・学年・学校集団の核となるリーダーを育成する。


取組の具体的内容	取組の創意工夫 キーワード 「主体性」「自治」「LINK」
----------	----------------------------------

生徒会による学校生活向上のための自治的活動

学校生活をより楽しくより良いものにしていくために、現状の良さや課題を出し合い、生徒会執行部や各専門委員会が様々な企画を考え、実施した。その一部を紹介する。


① 執行部主催の「LINK集會」

・生徒主催行事として、生徒会スローガン「LINK」を踏まえ、「コロナ禍の今だからこそ、みんなでつながろう」をテーマに、クイズやゲーム等を企画し、全校生徒で楽しんだ。



② 保健体育委員会主催の「ノー・フードロス・ウィーク」

・「給食の残菜が増えている」という課題を受けて、「ノー・フードロス・ウィーク」を設定し、各クラスでできるだけ給食を食べきるよう、集中的に呼びかけを行った。



③ 学級委員会主催の「オールA取～るDay週間」

・主体的に授業に参加する意識を高めるため、クラス対抗で獲得した「授業評価オールA」の数を競う取組を行った。

④ 生活委員会主催の「ロッカーそろえよっか一週間」

・吉田中学校の生活心得の一つである「整理整頓」のレベルアップを目的に、ロッカーの整理を呼びかけ、クラス対抗で整理整頓の状況を競う取組を行った。

- ・学校生活の課題について、できるだけ教師主導の指導で終わるのではなく、生徒たちの自治的活動を通して自分たち自身の手で解決させるという方針で取組を行った。
- ・コロナ禍で、生徒同士が「つながり」をもつ機会が少ない中、「どう工夫したらできるか」という視点から取組を考えさせた。
- ・常に生徒会スローガン「LINK」や生活心得の「吉中四訓」を意識させ、活動の目的を明確にして取り組ませるようにした。
- ・取組をしっかり評価してやることで達成感を味わせるとともに、新たな課題解決へ発展させる方向で指導・支援を行った。

取組の成果と課題

- 2学期末に実施した生徒アンケートでは、「仲間と協力して生徒会活動・学級活動に取り組んでいる」という問いに79.3%、「協力すると自分ひとりより良いものができると思う」という問いに95.3%の生徒が肯定的な回答をしている。取組に対してやりがいや達成感を感じ、生徒会活動や学級活動を前向きに捉えていることがうかがえる。
- 取組が単発で終わるのではなく、少しずつレベルアップしていけるよう、活動のふり返りを大切にさせるとともに、活動の機会や時間を保障していく必要がある。